

#1 教育を「江戸」から考えるー学びの身体化
ー辻本雅史先生(京都大学名誉教授、中部大学)にインタビュー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

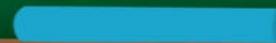
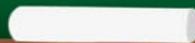
<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年幸生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



(ご紹介)



辻本 雅史

つじもと まさし

中部大学フェロー、京都大学名誉教授、中部大学名誉教授

京都大学文学部で日本史を、京都大学大学院教育学研究科（修士・博士課程）で教育史を学ぶ。文学博士（大阪大学）。光華女子大学・甲南女子大学・京都大学教授を経て、国立台湾大学教授（2012-2017）、中部大学教授・副学長（2017-2021）。

専攻領域は、教育史・日本思想史。主に江戸期の思想と教育を研究している。その立場から、近現代教育を相対化し、併せて来たるべき生涯学習社会を展望している。



書籍のご紹介



『江戸の学びと思想家たち』
(岩波新書、2021)



『「学び」の復権—模倣と習熟—』
(角川書店、1999
[2021年岩波現代文庫に改版])

それではご覧ください

『学びの復権—模倣と習熟』
 (角川書店1999 : 岩波現代文庫改版2012)

* 〈**滲み込み型**〉と〈**教え込み型**〉 :

東洋『日本人のしつけと教育—発達の日米比較にもとづいて』1994東京大学出版会

- ▶ 教え込み〈教え⇒学び〉 アメリカ/近代学校
- ▶ 滲み込み〈模倣⇒学び〉 日本/江戸期

◆方法としての近世 : **江戸の側から**教育をとらえる⇒近代学校教育の**特異性**をあぶりだす

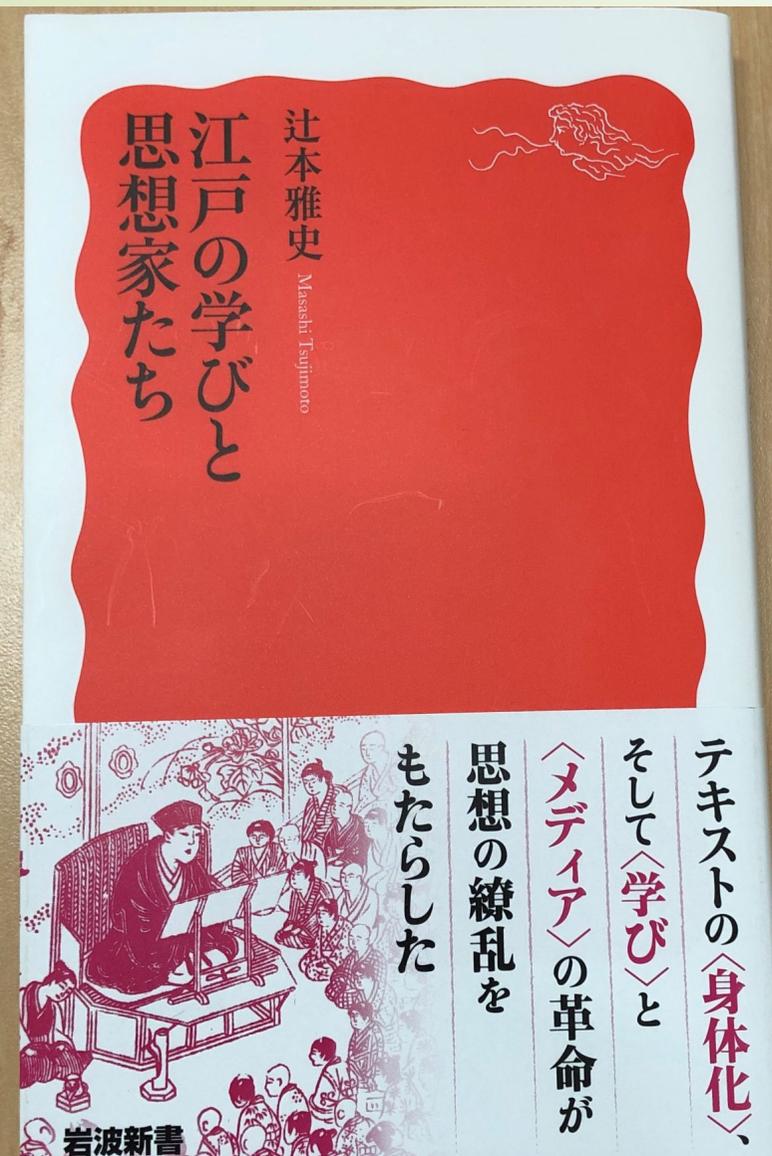
◆「教え」より「学び」

【江戸の「学び」と今の「教育」】



『江戸の学びと思想家たち』 2021 岩波新書

- ▶ 「江戸の思想」から近代学校を考える
 - ▶ 2つの「メディア革命」
 - ▶ 知のメディア⇒
知の「作られ方」と「語り方」
(思想の形成と発信)
- ◆近代学校の目的と根拠



1. 江戸の「学び」

- ▶ **学び**と**メディア**の二つを焦点に
- ▶ 「知」の作られ方（思想形成 = **学習**のメディア）
- ▶ 「知」の語り方（思想発信 = **教育**のメディア）

- ▶ 江戸の**学び**の場
 - 文字学習（**書き／読み**）：手習塾（寺子屋）
 - 学問（儒学・その他）
 - * 学問塾（私塾）：**経書の素読・講義・会読、専門学**
 - * 藩校：**武士層**、大半が18世紀後半～明治4、295校
 - * 郷学：**@藩が武士や庶民向けに**（閑谷学校,東原庠舎）
@向学有志の共同立（懐徳堂,含翠堂,朝陽館,京都番組小学校）

1-1. 手習（民衆層：手習塾における学び）

▶ **手本**を真似て（身体動作）それを**習熟**するまで繰り返す

▶ 〈読み - 書き〉ではなく 〈書き - 読み〉

①正しく(正確に)書ける / ②能書（草書連面体・御家流）

③日用活用の**わざ**（身体スキル）として**文書の型**の習得

⇒ 「**書札**（書札札）」（そのテキストが往来物）

■ 背景に 〈**文字社会**〉：初の**職業教師**と**学習空間**出現

* 兵農分離（都市と村,年貢石高制,商業と貨幣）⇒文書主義

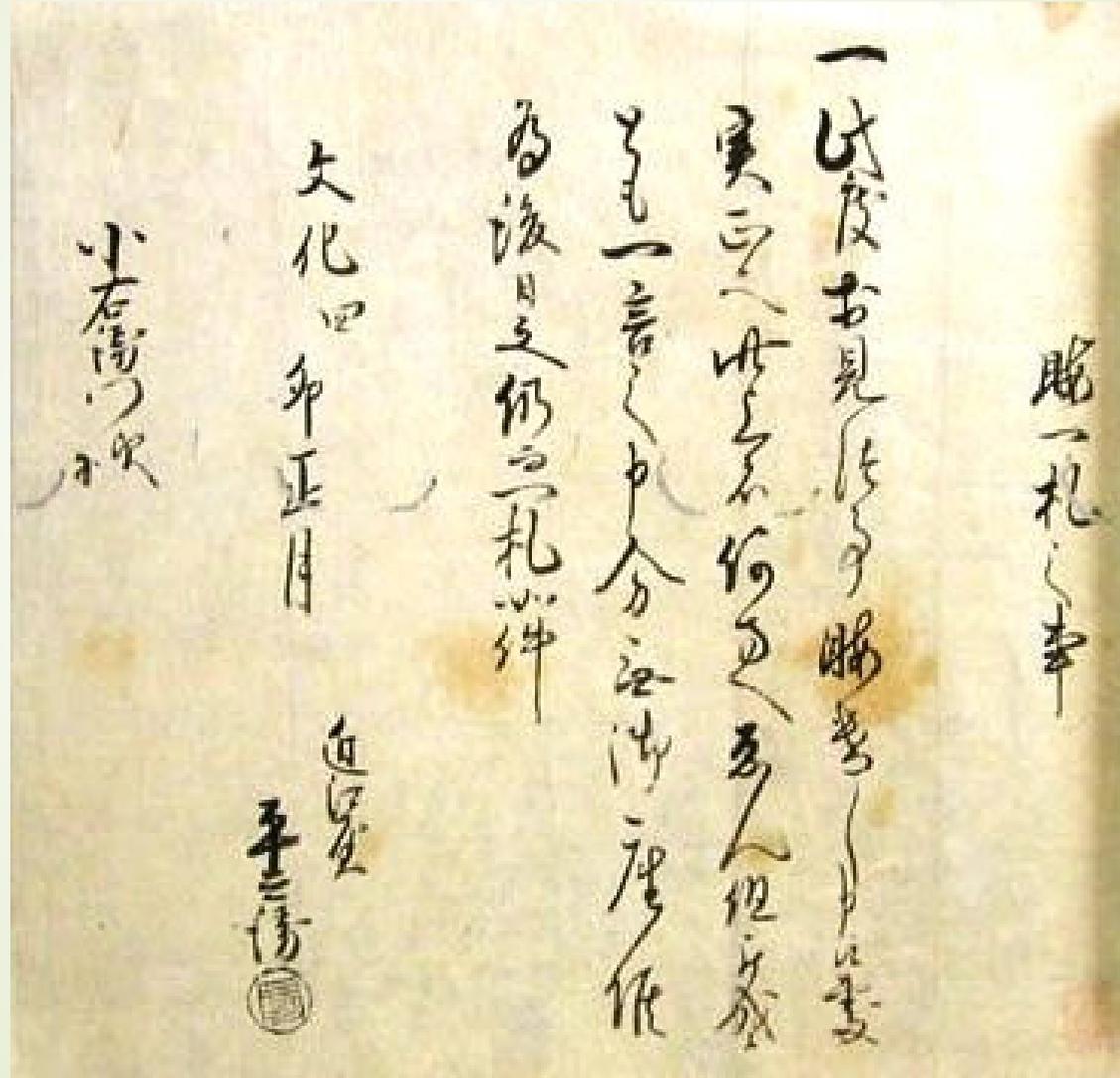
* **職業教師**[**手習師匠**]と**学習空間**[**寺子屋**]：日本史上初

○手習塾風景「一掃百態」 (渡辺華山)

○浮世絵に描かれた手習塾 (一寸子花里)



(三行半・お家流)



1 - 2. 漢文素読：学問（儒学）の学び

- ▶ 6-7歳から開始：経書（四書五経:古典漢文）を声に出して暗唱：意味理解を問わない機械的暗誦
- ▶ 「テキストの身体化」
- ▶ 知的活動は漢文[中国由来の知的資源]⇒漢文習熟は前提
- ▶ 経書：孔子（聖人）の思想を言語化
無数の注解が堆積したその用語・概念を身体化（共有）
⇒己の言語として自己表現し活用できる
- ▶ 漢文で考えた（思考言語・知的言語）：
⇒儒者たちは漢文でなければ表現できない知的世界を構築
⇒漢文は〈思考の文法/思考の型〉

素読稽古図 (謙堂文庫蔵)



漢籍テキスト：和刻本『論語集註』



1 - 3. 儒学の学びの目的：「道」の解明

- **天地自然**宇宙的大自然 = **道**：「万物」命ある禽獣虫魚草木を**生み/育てる**超越的存在:
- **朱子学**：理論化、**自然哲学**に基づく**人間学**⇒**闇斎学**は認識/行為主体の**確立**
- **学び**：天地の秩序（道）に自己を繋げる方法
 - ⇒**理想的人間**としての【**聖人**】
 - ⇒聖人を目指す**自己形成**としての儒学の学び【**自己教育**】
 - * **益軒**は「学び」を「術」レベルで展開
 - ⇒**学び**を**民生日用の文脈**で**カリキュラム化**⇒「天地に事へる」
- ①「**礼**」：自己と**人倫**（他者）との関係性の**身体技法**
- ②「**術**」：自己が禽獣草木[万物]と繋がる**技術**（身体技法）と**知識**
- * 「**術**」の学を**社会的に展開したのが荻生徂徠**

1-4. 江戸の「学び」の特徴

- ➡ 〈教え〉ではなく〈学び〉にもとづく
- ➡ 〈学び〉は個別学習・自己学習が原則
- ➡ 〈学ぶ側〉からするカリキュラム構成
- ➡ 〈身体化〉をともなう学び（学びの身体性）